

[8]えびの市小学校体育連盟

(学校数 5校 児童数 859人)

I 年間事業

期 日	曜	内 容	会 場
6月23日	火	・役員選出 ・水泳大会について ・研究計画	真幸小学校
8月4日	火	・水泳記録会反省 ・研究推進	真幸小学校
9月29日	火	・陸上記録会について ・研究推進	真幸小学校
12月10日	木	・陸上記録会反省 ・研究推進 ・次年度事業について	真幸小学校
2月下旬		・年間活動のまとめ ・次年度の方向性について	真幸小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳記録会

- (1) 大会名 令和2年度えびの市小学校水泳大会（記録会）
- (2) 実施期間 令和2年7月
- (3) 会場 えびの市内各小学校プール
- (4) 出場者 えびの市内小学校（5校） 5・6年生選抜選手
- (5) 実施種目 ※すべての種目「飛び込みなし」

	5年生競技	6年生競技
	種 目	種 目
男子	25m自由形	25・50m自由形
	25m平泳ぎ	25・50m平泳ぎ
女子	25m自由形	25・50m自由形
	25m平泳ぎ	25・50m平泳ぎ
リレー	学級対抗100mリレー	6年男子100mリレー
		6年女子100mリレー

- (6) 競技方法
 - ・ 各学校で水泳記録会を行い、記録を持ち寄り集計する。
 - ・ 出場する種目は、1人1種目とする。ただし小規模校に関しては1人2種目まで出場できる。
 - ・ 5年学級対抗リレーについては各学級男子2名、女子2名出場を原則とする。
 - ・ 6年リレーについては、小規模校に限り、異学年男女混合でも可とする。ただし、男子チーム扱いとする。
 - ・ その他細部についてはえびの市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程
各学校で記録会を設定し実施する。
- (8) 表彰
各個人種目、リレー種目3位まで入賞とする。
- (9) 反省
 - 感染症予防の観点から、今年度は各学校での記録会となった。大会は行われなかったが、全員の記録をとることで、児童全員が目標をもって練習に取り組むことができた。
 - 泳法違反者等について、全体での共通理解や指導の一貫性の確保が課題である。また、来年度も感染症予防の観点から本年度と同様に記録会にする予定であるので、来年度に向けての本年度の課題や共通理解事項等を確認し、えびの市内全体で共有する必要がある。

2 陸上記録会

- (1) 大会名 令和2年度えびの市小学校陸上大会（記録会）
- (2) 実施期間 令和2年10月
- (3) 会場 えびの市内各小学校運動場
- (4) 出場者 えびの市内小学校（5校） 5・6年生
- (5) 実施種目 50mハードル走
- (6) 競技方法
 - ・ 各学校で記録会を行い、記録を持ち寄り集計する。
 - ・ その他細部についてはえびの市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

- (7) 日程
各学校で記録会を設定し実施する。
- (8) 表彰
50mハードル走はえびの市内上位3位、他の種目に関しては各校上位3位までを入賞とする。
- (9) 反省
- 感染症予防の観点から、今年度は各学校での記録会となった。大会は行われなかったが、全員の記録をとることで、児童全員が目標をもって練習に取り組むことができた。
 - 各学校の運動場の広さ等の違いもあり、例年通りの種目をすべて実施することはできなかったが、50mハードル走においては全校実施することとした。他の種目においては、学校の実情に応じて各校で実施し、各校の上位3名を表彰した。
 - 大会がなかったこともあり、記録に学校差が大きく見られた。各学校での指導者の意識高揚と指導の工夫改善等が今後の課題である。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

「わかる・できる・かかわる授業の創造と展開」

～児童が主体的にかかわるための指導方法の工夫を通して～

2 研究目標

- 児童が仲間や学習に主体的にかかわり、運動の楽しさや喜びを味わうことの出来る体育科学習の指導方法を追求する。

3 研究仮説

- 体育の授業において、タブレット端末を主としたICTの活用の促進及び学習環境の工夫を行えば、児童が仲間や学習に主体的にかかわり、運動の楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

4 研究計画

年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
研究内容	○ 器械運動領域における教師及び児童へのアンケート調査	○ アンケート結果をもとに、授業づくりのための実践及び検証	○ 指導法の周知及び幅広い実践	○ 指導方法の実践（陸上運動・器械運動）

5 研究の実際

(1) ICTを活用した授業の流れ

ICTを活用した授業をする際には、主に以下のような流れで行うこととした。

- ① NHK for school等の動画を視聴する時間を設定し、正しい動きやミスにつながる動きの確認を行う。
- ② タブレット端末等を活用し、実際の児童の動きをお互いに動画で撮影する。
- ③ 児童相互やグループで正しい動きと自分の動きを比較したり、確認したりすることで、自分の動きの改善点や今後の練習で取り組む点を考えたり、話し合ったりする。
- ④ 児童相互やグループで話し合ったことを生かして練習に取り組む。
- ⑤ 練習後に再度動画で撮影し、自分や仲間の変化や成長を気付き認め合う。



【動画視聴の様子】

(2) 授業実践の様子

- ① 陸上運動におけるICTを活用した実践

陸上運動の学習において ICT を活用し授業を行った。本年度は、ハードル走や走り幅跳び、ソフトボール投げの授業で実践した。

㊦ 走り幅跳び (3～6 学年)

走り幅跳びの学習では、踏み切った後の様子を撮影した。練習の前に確認した模範動画のポイントと照らして自分の動きを確認させたり、模範動画と自分の動きの違いを比較させたりすることで、改善が必要な点に気付くことができるようになった。



【幅跳びの動画撮影の様子】

㊧ ハードル走 (6 学年)

ハードル走の学習では、ハードルを越える瞬間をタブレット PC で撮影した。「振り上げ足が真っ直ぐに伸びているか」、「高く跳びすぎているか」、「抜き足の形はよいか」などの視点で動画を確認し、練習に生かそうとする姿が見られた。また、動画を確認する際、児童同士で話し合う時間を設定することで、今後の練習でどのようなことに気をつけて取り組むかについて考える様子が見られた。



【ハードルの動画撮影の様子】



【動画を確認し、話し合う様子】

② 器械運動における ICT を活用した実践

器械運動の授業において ICT を活用し授業を行った。本年度は、マット遊び、マット運動の授業で実践した。

㊦ マット遊び (2 学年)

マット遊びの学習では、「手を着く位置」、「お尻を着く位置」、「目線」の 3 つの視点を示し、前転がり、後ろ転がりの模範ビデオを視聴させ、気付いたことをワークシートに書かせた。その後、上手に転がるためのポイントを全体で共有した。模範の動きを視覚的に理解したことで、上手になるためのポイントを意識しながら練習に取り組むことができた。また、撮影した動画を見ながら、3 つの視点についてできているかを確認し、次の練習で気をつけることなどについて話し合った。

○ どうしたら上手にまわれるかな？	
手	手をもち、と耳のうしろを 手で押さえておくと よい
目せん	上にならざるからお尻の お尻の位置を見たらよいよ
おしい	お尻がまわりがよいよ したほうがまわりがよいよ

【児童のワークシート】



【試技と撮影の様子】

① マット運動（6学年）

マット運動の学習では、自分の挑戦した技をタブレットで撮影することで自分の課題を発見できるようにした。児童同士で撮影した動画を見ながら、友達と改善点を話し合う姿がうかがえた。その際、自分の技と模範動画を比較させたことで、自分の課題をより明らかにすることができたようだ。毎時間最後に動画を撮影したことで、本時の振り返りと次時の課題を見つけることができた。



【模範動画の確認】

6 成果と課題

① 成果

- 模範動画を視聴する時間を設定することで、技能を高めるポイントを視覚的に理解することができ、正しい動きをイメージしながら、練習に取り組むことができた。
- 自分の動きを撮影してもらい、確認することで、課題を見つけることができた。また、その課題を意識して次の練習に取り組むことができた。
- 互いに動画を確認したり、動画をもとに話し合うことができるようにグループ活動を位置付けたことで、互いのよさを認め合ったり、技能を高めるためのアドバイスをし合ったりする姿が見られた。

② 課題

- ICT機器の活用上のトラブルもあるので、定期的に点検するとともに、児童に取り扱いを説明していくことが必要である。
- 児童が模範動画や自分の動画を見ながら学習を進めていく中で、教師がどのようにアドバイスを与えたり、指導したりすればよいか研究していく必要がある。